

自 彊 会 だ よ り



今 も

変わらぬ伝統と文化

第 20 号



2012年の空は今日も青い。



より輝く明高へ! 深めよう母校と同窓生の絆

同窓会長 草川雄二
(高11回)



自彊が丘の明石高校の屋上から見る明石海峡は、のどかな春の日差しの中ゆったりと穏やか：『春の海終りのたりのたりにかな』(蕪村)まったくそのものです。

しかし、昨年三月の東日本大震災で、海が津波という自然の脅威に変貌し荒れ狂う姿は、想像を絶するものでした。あれから一年が経ちますが被災された方々には、心の落ち着く間も無いお暮らしに心が痛みます。本当に一日も早い安心で安全な生活が戻ることを願うばかりです。

自彊会員の皆様にはご健勝にてお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。また、平素は同窓会運営にご理解をいただき有難く感謝いたしております。

さて、会報『自彊会だより』二十号を会員の皆様のお手許にお届け致しました。今回が、創刊号から節目の二十号となり、この機会に会報のスタイルを変更改しました。学校・同窓会と会員の皆様とを結ぶ唯一の連絡網をより充実させ、見易く、一層の愛着を持ってご講読頂けるようにと会報編集委員会で会合を重ね、出来上がりしました。母校の近況、自彊セミナー、会員の親睦、母校への支援、同窓会からのお知らせ等幅広い記事に、充分目を通され母校への関心や、同窓会の存在を再度ご認識下されば幸いです。

『ひととせは はかなき夢の心地して』一年の経つ

は早く夢のような感じで過ぎて行き、愈々学校創立九十周年が来年に迫って参りました。学校・PTA・教育振興会・同窓会の四者で記念行事実行委員会を発足させ、記念事業計画も着々と前進しております。また、本年は、総会の後に懇親会・米寿を祝う会の開催年となっております。懇親会には、米寿を迎えられた中学十五回・十六回生の皆様をお招きし、ご長寿をお祝い致します。米寿の皆様には、お一人でも多くご参加下さいませよう。ご案内申し上げます。全体懇親会は、懐かしい先輩・後輩との再会、また思わぬ方々との出会いがあり、楽しい一時と親睦の輪が広がる事が期待されます。多くの会員のご参加をお待ち致しております。

今年、五年毎の同窓会名簿の改訂年となっております、二〇一二年版が五月に発行されます。現在明中(二十回)・明高(六十四回)は卒業生数三万と一千名の大家族となっております。平成十七年四月に施行された個人情報保護法に伴い、名簿発行に慎重な声も聞かれますが、同窓会活動を充実発展させて行く為には、同窓会と会員を繋ぐ絆として、会員相互でお互い仲間を確認し合い、親睦を深める資料として名簿は必要不可欠と考えます。同窓会では、お預りしている同窓会員の個人情報、同窓会会則に定める事業、同窓会からの通信および連絡等同窓会の活動に役立てる目的のみに利用することを認識いたしております。

同窓会が着実にして活力ある活動を維持して行くために、一層の組織の強化と団結が不可欠であります。東京自彊会、県庁自彊会、明石市役所自彊会等、継続的に支部活動を行ってられる支部は同窓会組織の大きな力であり、支えで有ると感謝致しております。また、新しい地域支部の創設もこれからの課題であると考えております。

会員の皆様には、今後とも母校への心温まる支援と同窓会運営にご理解とご協力をお願い致します。

最後に、末筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

平成24年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多人数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

- 一、期日 平成24年5月26日(土)
- 二、時間 午後4時(受付は3時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石 二階
- 四、次第
 - ① 会長あいさつ
 - ② 議案審議
 - ③ 会長あいさつ
 - ④ その他

懇親会のご案内

総会後、二年に一度の懇親会を開催いたします。ご友人を誘っていただき、お気軽に参加下さい。懇親会の中で、中学15・16回生の先輩をお招きして、「米寿を祝う会」を予定しております。

記

- 一、期日 平成24年5月26日(土)
- 二、時間 午後5時(受付は4時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石 二階
- 四、会場 五千円
- 五、申込 同封の振込用紙をご利用いただき、5月21日までに会費を納入下さい。

学校創立90周年 記念事業の概要

中大正12(1923)年に誕生した明石高等学校は、創立90周年を迎えます。3団が中心となり、支援する会(PTA・教育振興会・同窓会)が中心となり、準備に取組んでいます。現在決まっております概要だけですが、お知らせさせていただきます。

- 1 期日 平成25(2013)年5月25日(土)
 - 2 内容・場所
 - ① 記念式典・記念講演 明石市民会館(借用予定)
 - ② 祝賀会 舞子ビラ宴会場
 - ③ その他 25年度内に、ふさわしい行事を検討中
- 詳細のご案内は、会報21号です。予定です。

大きな人間を育てる明高

第21代校長 岡本光弘



昨年は三月の東日本大震災だけでなく、一月の宮崎県・鹿児島県境の新燃岳噴火、

七月の新潟県・福島県や九月の紀伊半島での大雨・洪水と多くの自然災害に見舞われました。また、海外でもタイの洪水等により多数の企業が影響を受けました。自彊会員の皆様は全国各地、さらには世界でご活躍ですので、被害に遭われていないか心配しています。

今春卒業した六四回生三五四名が加わり、明高の卒業生は二五九三名になりました。明石中学校卒業生を加えますと、その合計は三〇七八名になります。

来年の五月二五日には創立九十周年記念式典を予定しており、その準備を進めているところです。

明高の近況を紹介します。学習面では、「学力向上プロジェクト研究指定校」「SPP(サイエンスパートナーシッププログラム)」「理数教育等学力向上重点指定

校」に指定され、様々な取組により学力向上をめざしています。エアコンを活用した放課後や土日曜日の自習教室は、昨年にも引き継がれ明高の新たな伝統になりました。自彊会による「自彊セミナー」では、難関大学訪問などの体験講座や衛星放送を活用した学習講座などのご支援をいただきました。これらの効果もあり、今春卒業した六四回生は全体としてこれまで以上の進路結果を残すことができました。

明高祭では三年生全クラスが演劇を披露しました。今の時代にクラス単位で演劇を作り上げる事は貴重なもので、自慢できる伝統です。その内容も生き方や命について考えさせられるテーマでレベルの高いものです。最優秀クラスの再演を全校生が鑑賞する機会を設けましたので、刺激を受けてさらにレベルアップするものと期待しています。体育大会は台風による休校などで生徒にとって登校しない日が五日続いた直後に予定なしで行うという異例な開催でしたが、スムーズな動きで見事な出来になりました。



部活動では春、夏、春と三期連続で全国大会への出場権を得るとともに夏の総体で全国ベスト8に輝いた女子ハンドボール部など好成绩の部が増加しています。学習活動・学校行事・部活動など、これまで培われた伝統にさらに磨きをかけ引き継いでいます。生徒たちは明高で日本一の高校生活をする事で、さらに大きな人間に成長するものと信じています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

もくじ

| | |
|--------------|----|
| 会長あいさつ | 1 |
| 総会・米寿懇親会案内 | 1 |
| 90周年記念概要 | 1 |
| 校長あいさつ | 2 |
| 旧職員同窓会 | 3 |
| 64回生入会あいさつ | 3 |
| 若葉のうた | 3 |
| 自彊不息 | 4 |
| ようこそ先輩 | 6 |
| 学年同窓会交歓 | 8 |
| 成人同窓会 | 12 |
| 支部だより | 12 |
| 生命・科学探究類型説明会 | 14 |
| 部活動OB会 | 14 |
| 東京同窓会 | 15 |
| 自彊セミナー報告 | 16 |
| 転勤あいさつ・人事異動 | 17 |
| 進路状況 | 18 |
| 部活動報告 | 20 |
| 事務局より・役員表 | 22 |
| お悔み | 23 |
| 決算報告・編集後記 | 24 |

明高会 (明石高校旧職員の手)

3月10日、西明石のホテルキャッスルプラザにおいて明高会(旧職員の手)を開催し、39名が旧交を温めました。

当日は、逝去された会員と東日本大震災で亡くなられた方々に追悼の黙禱を捧げた後、世話人代表の谷内豊先生のご挨拶で開会。続いて、ご来賓の岡本光弘校長から祝辞と近況報告をいただき、進路実績や部活動の活躍、国際交流の取り組み、高校入試における明高志願者数の激増等、愛する明高の活躍に参加者一同、喜びの声をあげ、今後の飛躍を祈念しました。

その後、東道修造先生のご発声による乾杯で始まった歓談の時間では、かつての勤務時の出来事を、つい先日のことのように感じつつ、思い出話に花を咲かせました。

終盤には全員が自然と肩を組み、山本茂之先生の指揮の下、中島寛先生のエールを受けながら輪になって校歌を熱唱。今も明高校歌は旧職員の応援歌であると痛感しました。

大変和やかに過ごした時間もあっという間に過ぎ、高德雄三先生の挨拶と上河創教頭による万歳三唱で、別れを惜しみつつ2年後の再会を誓い合いました。

(小林・記)



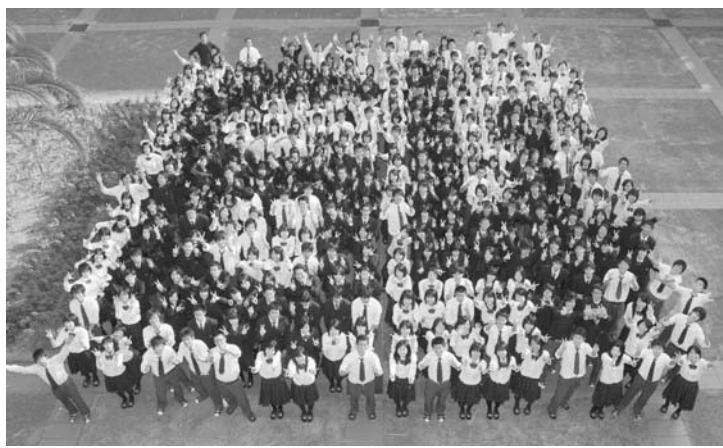
第6回明高会

同窓会入会あいさつ

小柴智弘(高64回)

私たち明石高校第64回生は、先日3月1日に卒業の日を迎え、同時に同窓会に入会させていただきました。この明石高校で過ごした3年間は私たちにとってとても大切な思い出となりました。毎日夜遅くまで練習した部活動。クラス一丸と

なって取り組んだ明高祭、体育大会、球技大会。日々の授業や、休み時間の何気ない友達や先生との会話も今となっては懐かしく、そして少し淋しく思い出されます。これから先はみんなそれぞれの道を進んで行きますが、いつの日かこの「明高」の卒業生だということに誇りをもてるよう、日々努力していきたいと思えます。これからもこの明石高校のさらなる繁栄に協力させていただきたいと思えますので、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願致します。



若葉のうた

寒い冬を越え、花咲く春がやってきた。日本は四季を愛でるところから豊かな文化を育んできた。四季の中でも私が一番好きなのは五月だ。若葉が輝くように美しい緑だ。その頃にこの冊子が発行される。そこで『若葉のうた』と名付けることにした。

金子光晴さんの詩に、『森の若葉』(一九六七年)というのがある。ついこの間、パラパラと詩集をめくって見つけた。この詩は、お孫さんの誕生を喜んで書かれたのだが、最後の行にこうある。「森の若葉よ 小さなむすめ 生まれたからはのびずばなるまい」希望がありながら、胸がきゅっと切なくなるのは何故だろう。この詩が書かれてから半世紀を経た今、日本はいい時代へと進化しているのだろうか。非力ながら自分に何かできることはないかと考える日々である。老人が老人を介護する時代、介護施設という名案が、時に金儲けの手段にされたりすると不安を覚えずにはいられない。次は自分の番なのだから、今できる内にできることをするということを送り方をシステムとして引き継いでいく取り組みを考えている友もいる。

同窓会という組織も、高校生を元気に育てようという未来を明るくしようという一助になり得ているのではないかと、若葉はうたうのだ。

(幸)

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性的な方を紹介するものです。

昨秋、文化功労者に選ばれ 顕彰された国文学者

片桐洋一氏(高2回)



文化功労者にこれまでお会いしたことがない。新聞の紙面で拝見するだけで、雲の上の存在だった。そのような人が卒業生から選ばれたのだ。著名な先輩にお会いできる嬉しさと、平安時代文学の第一人者で、特に「伊勢物語」に詳しいとお聞きし、不安まじりでご自宅を訪問した。

(聞き手は竹内信六副会長)

【この度は文化功労者に選ばれ、おめでとうございます。顕彰された時の模様などをお聞かせ下さい】

顕彰状の日付は文化の日の11月3日になっていますが、実際は翌4日、都内の著名なホテルで中川正春文部科学大臣からいただきました。「あなたは文化の向上発達に関し、とくに顕著な功績をあげられた。よって文化功労者として顕彰し

ます」となっています。そして昼食、記念撮影(功労者ばかり、次に夫人も一緒に座りましたので、隣は俳優の大滝秀治さんでした。大滝さんは多くの記者に囲まれていました。この後、宮中に参内、功労者だけのお茶会(軽食会)があり、美智子妃殿下、皇太子殿下、秋篠宮ご夫妻が出席され、緊張して食事をいただきました。お祝いのお言葉と色々質問も受けました。この間、夫人方は宮中を見学させていただきました。

【文化勲章受章者と文化功労者の違いを教えてください】

わかりやすくいえば、文化功労者は文化勲章受章者の予備軍です。功労者で、その後、文化勲章を受章される人もおられます。

【これまでも勲章を受けられている、とお聞きしていますが】

大阪女子大の学長をしていたからでしょうか、二〇〇八(平成20)年4月に瑞宝中綬賞を受けています。

【先生の歩んでこられた道をご紹介します】

父の仕事の関係で旧満州国奉天市(現中国瀋陽市)の奉天第二中学に入學、一九四六(昭和21)年、日本に帰国、明石中3年(のち、学制改革で明石高)に転入學しました。一九五〇(同25)年、明石高



を卒業、京都大学文学部に入学しました。一九五四(同29)年、京大を卒業、大学院文学研究科修士課程に入學、一九五六(同31)年、博士課程に進学しました。一九五九(同34)年、大阪女子大学(現大阪府立大学)助教に就任しました。一九七四(同49)年、教授になりました。一九七八(同53)年、学生部長に就任、学長の急逝に伴い、学長代理を翌年一月末まで勤めました。一九八四(同59)年6月、全日大文学部国語国文学会春季大会公開講演に「伊勢物語の本質とその背景―白詩との関係に触れつつ―」を講演、この月、文部省の公立大学助成金による在外研究員として、ドイツ、オランダ、スエーデン、イギリス、アイルランドへ出張、在外日本古典文学資料を調査しました。一九八七(同62)年、大阪女子大学学長に就任(任期4年)しました。一九九一(平成3)年、任期満了で学長を退任し教授を依頼退職、名誉教授の称号を受けました。このあと、関西大学文学部教授に就任しました。一九九二(同4)年、「古今和歌集の研究」で関西大学博士(文学)の学位を授与されました。一九九四(同6)年、中古文学会全国大会で「古今集」紀貫之の歌の方法―屏風絵と歌作り―を講演。一九九八(同10)年、鉄心斎文庫所蔵伊勢物語展講演会で「伊勢物語」の本文と「伊勢物語」の享受」を講演しました。二〇〇二(同14)年、関西大学百周年記念会館ホールで「待つ心惜しむ心―私の古今和歌集」を最終講義しました。そのほか、藤原俊成、定家の末裔にあたる和歌の家・京都冷泉家の財団法人冷泉家時雨亭文庫の仕事にたくさん関わりました。国宝・国重文を多数収蔵している御文庫(蔵)の典籍の解説作業などに携わりましたし、機関誌「志くれてい」に「勅撰和歌集小史」を執筆したりしました。

【作者は未詳ですが、在原業平の作といわれている「伊勢物語」。業平を思わせる男を主人公とし、その一代記風の体裁をとっている「伊勢物語」の魅力は、どこにあるのでしょうか】

「昔、男ありけり」で始まる「伊勢物語」ですが、普通15段といわれていますが、15段の本もあり、15段しかない本もあります。高校時代に習った「東下りの段」などを思い出していただければいいのですが、言葉数が少なく、想像力のある人が読めば、これほど面白い本はないとおもいます。

【出版された主な書籍をご紹介します】

「古今和歌集全評釈」(講談社から上、中、下)などきわめて多くの本を出しています。ことし平成24年中に「伊勢物語全読解」(和泉書院)を出版する予定です。

【先生の高校時代はどんな生徒だったのですか】

文学少年でした。高校2年の時、太宰治の死に大変ショックを受けました。芥川龍之介や坂口安吾の作品などもよく読みました。クラブは文芸部に入っていました。顧問は後に校長になられた田村英夫先生でした。国語は長沢忠雄先生、慶野正次先生でした。いっふう変わった滑川裕弘先生とも親しくしていただきました。

【最後に、後輩たちに何かアドバイスを】

好きなことをやって欲しい。自分が何をやりたいのか、早くつかんで欲しいと思います。

失敗を克服するための努力を

阪神電気鉄道株式会社

社長 藤原 崇起 氏 (高22回)



一流企業の社長にインタビューするのは緊張する。電鉄会社といえば、男の集団というイメージがある。マスコットキャラクタ「トラッキー」がかわい...

【野田駅周辺は、随分整備されていますね】

かつてここは神戸からの路面電車(阪神国道電車)の終点だった所です。以前の社は、今のハービス大阪(ホテル「ザ・リッツ・カールトン大阪」などが入居)にありました

【これまで歩いてこられた略歴をお教え下さい】

大阪府立大学経済学部を卒業して、一九七五(昭和50)年に入社し、主に現業部門を歩んで来ました。二〇〇五(平成17)年に取締役に...

【鉄道は技術革新の歴史かと思えます。ATS導入、神戸高速鉄道への阪神、阪急、山陽電車の相互乗り入れなど、いろいろ苦労があったと思いますが】

ATSは一九六八(昭和43)年に阪神、阪急、山陽とも導入しました。その後も、自動改札機を導入したり、性能の良い車両を導入したりと、この30年間で技術革新は大きく進みました。そして技術の進歩は人の働き方を変えていきます。私の仕事の大半は、従業員と働き方について議論することであつたと思います。神戸高速は線路と駅舎を所有しているだけで車両は保有していない会社ですが、収益性悪化から経営改善が必要となり、阪急・阪神グループで経営を引き継ぎ、運営形態を見直すことになりました。これによって、社員も阪急、阪神に分散して仕事を...

【仕事をとおして得られた信念の一端に触れられたように感じますが】

鉄道事業とは、失敗をしてはそれを克服するために努力する。その歴史の繰り返しです。安全を守るためにも、私は従業員に対して自分の言葉で具体的に話を...

【山陽との相互乗り入れに続き、阪神ならば線が開通して、奈良方面へ行くのが随分便利になりました】

一九九八(平成10)年に直通運転の区間を姫路まで拡大したほか、二〇〇九

(同21)年には、阪神ならば線が開業し、近鉄との相互乗り入れを開始しました。相互乗り入れは、各社の安全を守るための考え方、方法が違うため、非常に難しく、十分に意見を交わすことが重要です。阪神は線路の幅が一、四三五ミリメートルの標準軌です。近鉄はいろんな会社が合併してできた企業ですが、奈良線をはじめ多くの路線が、同じ標準軌なのです。これが幸いしました。ぜひ、皆様も喜春城の明石から三宮においていただき、阪神ならば線を利用して古都・奈良の風情を楽しんでください。

【東日本大震災から1年。阪神・淡路大震災から17年、阪神間の交通大動脈として、ご苦労があったことと存じます】

阪神・淡路大震災では石屋川車両基地をはじめ、神戸市内の高架橋が壊滅的な打撃を受けました。勿論、沿線住民の方々も大変な被害を受けられました。バス輸送に切り替えたりして乗り切り、多くの方々のご支援のもと、おかげさまで、5カ月後には全線の復旧ができました。

【これからの鉄道は】

環境にやさしいことが第一です。阪神では、既に8割が省エネ車両で、VVVFインバータ制御という、特に節電効果の高い車両も二〇〇両近く走っています。

【座右の銘がありましたら教えてください】

前の国連事務次長・明石康さんが言っておられた「偏らないこと」「不偏」をモットーにしています。

【最近読まれた本の中で感銘を受けられ

た言葉は：】

姜尚中(カンサンジュン) 姜尚中・東大大学院教授の確か「リーダーは半歩前を歩け」という本の中の『政治家は国民の半歩先を歩く』ですね。一歩前ではない、手とどく半歩というのがいいと思いました。ほかに関正和氏の「大地の川」「天空の川」、千葉敦子さんの「ニューウーマン」「ちょっとおかしいぞ日本人」なども推薦したい本です。

【高校時代の思い出は】

図書委員をしていました。バレーボール部を半年でやめ、地学部(吉川泰教諭)に入り、ドームで徹夜で天体観測をしたのが楽しい思い出です。今もそのメンバーとは年一回、先生を囲む会をやっています。印象に残った先生は数学の佐々木賢祐教諭と西山優教諭、英語・中村隆次教諭、生物・島田芳雄教諭らです。



【明高生たちにアドバイスを】

まず本を読んでください。興味のあるものなら何でもいいと思います。自分で考える、想像する力を養って欲しい。テレビでは味わえない大きな創造の世界に浸って欲しいと思います。

ようこそ先輩

努力すれば道は開ける

松本 直彦氏(高13回)

途中で転校Ⅱ

二〇一一年七月、五〇年ぶりに明石高校を訪ねた。時間があるので生徒時代のように明石駅から人丸小学校経由で歩いてみようかとも思ったが、道に迷っても困るので、バスで行くことにした。学校の周辺および校内のすべてが変わっていて浦島太郎になったような気分だが、中部講堂だけは昔のままの威容を誇っていた。嬉しいのは広大なグラウンドが残されていること。丘の上の広大なキャンパス―これこそ明高の変わらぬ姿だ。

明高を訪ねたのは、講堂での特別授業で後輩達のために何かしゃべってくれ、と同期の竹内氏から依頼を受けたためだ。挫折と復帰を何度となく繰り返してきた我が人生を振り返り、中国故事「塞翁が馬」も引用し、一度や二度の失敗があっても、こつこつ努力を続ければ必ず道が開けると話した。また、最近母校の北大から入試改革の話聞いたばかりなので、

これについても説明した。他の大学と異なり理類、文類という大枠で入学し、教養課程を経て真に希望する学部、学科へ進学するというユニークなシステムであるが、これを聞いて奮起する生徒さんが少しでも増えれば嬉しい。皆、熱心に聴いてくれたが、質疑応答がなかったのは少々寂しい。

もう一人の演者和田直樹氏(53歳)は、聞いてみると、バスケットボール全国大会にも出て活躍したスポーツマンで、すっかり意気投合した。世間は広いようで狭いというが、同窓のつながりというものには面白いものと思わぬ展開があるものだ。このたびの行事に誘ってくださった竹内氏に感謝したい。



発がん予防について

生命・科学探究類型合格者に

兵庫大教授

大西 隆仁 教授(高30回)



3月10日、視聴覚室で生命・科学探究類型合格者の1年生を対象に、兵庫大健康科学部

栄養マネジメント学科・大西隆仁教授が「発がん予防」と題して講演した。一般入試よりひと足早く合格した生徒たちに、高校生生活に慣れてもらうため、毎年、同窓会が主催しているもので、「ようこそ先輩！」企画の一環。

大西教授は高30回卒で、徳島大医学部卒。大阪大で研修、国立ガンセンターで研究、アメリカ・ネブラスカ大留学、西神戸医療センター病理科を経て兵庫大へ。明石医療センターで非常勤医師を勤めておられる。医学博士。

大西教授は、パソコンを使ってビデオで説明

した。講演要旨は次のとおり。

腫瘍は良性と悪性がある。悪性が癌と肉腫に分けられる。一九五〇～二〇一〇年までのがんの死亡率は、男性は肺、胃、肝臓、大腸の順で肺が最も右肩上がりの傾向にある。女性は大腸、乳がんの順。乳がんは30代から発症する人が多い。原因として、食生活の欧米化、晩婚あるいは未婚、肥満があげられる。なぜ、がんは増えるのか。食生活が大切で、タバコ、酒・塩胃の粘膜を傷つける、魚のコゲ(発ガン物質を含有)が良くない。ピロリ菌が胃がん、悪性リンパ腫などの発症と関わっている。がんを予防するには、生活習慣を整えることが大切。たとえば大腸がんの場合、肉食中心の食生活を止め、脂肪をとり過ぎないこと、喫煙、飲酒を控えること、女性は便秘に気をつけることが大切。ダイエットという言葉がよく耳にされると思うが、痩せることではない。肥満防止や解消のために取り組む食事制限のことだ。



高校時代は是非 部活動に情熱を

和田 直樹氏(高28回)

6月29日、明高90周年の準備委員会合の後、草川会長に呼び止められ今回の特別授業で何か喋れとのお言葉をいただきました。

第1回でもやらせてもらってますし、今回は2週間程も準備期間がない。

「会長、ひょっとしてあちこちで断られましたか？」

「当たり前！」
やっぱり、とは思ったものの時間を考えると引き受けざるを得ませんでした。



さて当日は私の職業である建築土木という仕事とは？と高校時代にやっておくこと、という2つのテーマで喋らせていただきました。持ち時間50分(！)とい

う事でしたがなんとか間を持たせる事が出来たかなと思っております。特にやっておくべき事としてクラブ活動を上げましたが、当日お会いしたもう一人の講師の松本先輩が13回生で同じバスケット部だったとわかり、感激もひとしおでした。やっぱりクラブはやっぱりか、と強く思った次第です。

さて同窓生のみなさん、特別授業は大変貴重な体験となりますので、同窓会から依頼がありましたらお断りになりませんようお願い申し上げます。

表現者でい続けたい

寛 有子さん(高48回)

美術科同窓会支部(鷺森智美支部長)

主催の講演会が平成23年12月16日、浜松市在住で京都嵯峨芸術大短期大学非常勤講師の日本画家・寛有子さん(美術科11回、高48回)を招いて美術棟で開かれ、同科1〜3年生と普通科で美術を選択している生徒が「on the Line—地球人と絵画制作」と題した講演を聞いた。講演の要旨は次のとおり。

人生を選択する時に、私の話が役立てばと思う。「on the Line」とは、マイケル・ジャクソンも歌っているが、ライン

の上に乗っていて、どちら側に転ぶかわからない状態をいう。危ないラインに乗って人生に挑戦しようじゃないか、という意味だ。「美術科」「大学」就職「ドイツ前期」「ドイツ後期」「帰国後」これらを生きてゆくために」の順で話したい。



高校では日本画を選んだ。水彩で受験できる筑波大を選び合格した。卒業後、高校の非常勤講師をしていた。日本画をやっていたので、外国に特に憧れはなかったが、大学時代の彼が外国で仕事をする、というので私も行くことにした。ドイツは現代美術が盛んな国だ。二〇〇三(平成15)年、ハンブルクへ行ったが。

ドイツ語を覚えるのに、
一般のドイツ人と考えを述べ合う。

- ・美術に興味があるドイツ人と美術について話す。
- ・日本や日本文化に興味があるドイツ人と日本について話す。
- ・ドイツ人以外の外国人と話す。
- ・ドイツに住む日本人と日常会話をする。努力をした。

ワークショップを始めた。水干絵の具が好きだったので、これを使ってどういう絵が描けるか、実験していった。展覧会を開いた。美術の専門学校に入った。学校の友人とグループ展も開いた。

二〇〇七(平成19)年、ハンブルク美術大に入り2年間、勉強した。いろんなジャンルの人と交流した。年月が経つことによって、作品が変わっていった。7年ドイツにいて、二〇一〇(平成22)年9月、帰国した。

「地球人と制作」と題したのは、
・地球に住む人間として生きる(美術をやっていく)。
・表現者でい続けること。
・いつも自分にとっての「on the Line」でいること。

の意味を込めている。ドイツで過ごすには、笑顔と「ハロー」「ダンケ」「ビッツ(英語のプリーズ)」があれば、なんとかなる。(13面に関連記事)

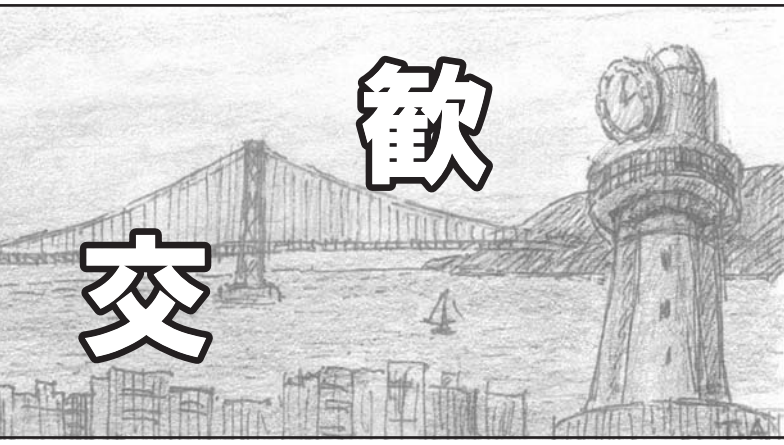


中学二十回

杉山清巳

私達、明中最後の卒業生として昭和22年に母校を巣立って、平成23年で64年になります。

中学3年生の時、学徒動員法で、明石市の川崎航空機に派遣され、ペンをハンマーに持ち替え、何も解からないままお国の為と戦闘機(名称キ45・キ102)造りに励みました。



イラスト・安藤 勉 (中18回)

交

歡

昭和20年1月19日にはB29の爆撃を受け、多くの仲間を失った思い出と言いか、大変つらい出来事がありました。

昭和20年8月15日、予想もつかなかった日本敗戦を迎え、今もガアガアと雑音が多かった玉音放送が忘れられません。

還暦の記念同窓会を開いた時、誰言う事なしに「我々もこれからは年をとるばかりになるので、同窓会は毎年行つてはどうか」との事で全員が81〜82歳になる本年迄、毎年行っています。

同窓会の案内は、40〜45名の者に出していますが、体の調子が悪い人、都合が悪かったり、平成23年度の出席者は14名でした。

今後共、私が元気である内は出来るだけ御世話をし、旧交を温めていきたいと思っています。



高校三回

岡野茂晴

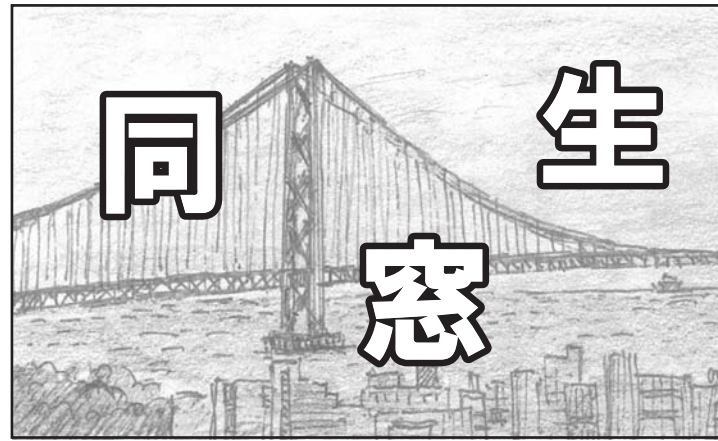
高校卒業後六十年、傘寿を迎え同窓会を10月23日(日)、グリーンヒルホテル明石に於いて開催した。

母校より岡本光弘校長、上河創教頭、自彊会より草川雄二会長、吉田眞司先生(事務局)のご臨席を賜り同級生男子三十一名、女子二十四名が集い盛大に傘寿を祝った。

会は昔話、現状、欠席の級友のこと等懐かしい話が続き、カラオケ合唱に及び八十歳とは思えぬ程に盛り上がり三時間があっという間に過ぎ、別れを惜しみながら早期の次回開催を申し合わせ散会となった。二次会にも大勢が集り尽きぬ話に時の過ぎるのも忘れ高校時代の気分浸った。

会の冒頭、岡本校長、上河教頭より母校の現況、また草川会長より自彊会の現状と活動について、吉田先生から十八年間の自彊会の基盤作りやら苦労話をそれぞれお話しを頂き全員認識を新たにしました。我々卒業生が胸を張れるよう母校明高の更なる発展と支援する自彊会の存在が意義あるものになることを心に刻んだ同窓会であった。





高校九回

堤 明

平成23年11月13日(日)にグリーンヒルホテル明石にて、明石高校第9回卒業生による同窓会を67名の参加者を集め開催しました。

第一部は同窓生石本秋稔君(京大名誉教授)による「医学の進歩に夢を託して、どこまで進む医療と寿命の伸び」の講演を聞き、いろいろ考えさせられる有意義な話のあと、第二部の懇親会に移り、歓談や有志による演武など、楽しい一日を



過ごさせていただきました。

高校十一回

大林省三

明高11回生が母校を卒業して52年が経ち、全員が70歳の古希になることから昨年4月18日に「明高11回生古希記念同窓会」をグリーンヒルホテル明石で行った。

東日本大震災1カ月後のため多数の参加が望めないと心配したが、2年前の同窓会と比べ10人減の79人だった。関東からの参加は5人で、東京で毎年、関東地区11回生同期会を開催、その模様を撮影したビデオや写真が披露された。

開会の挨拶は同期で明高同窓会長でもある草川雄二君が、自彊会の活動報告や母校創立90周年の支援を訴えた。同期生の物故者追悼の際には、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り黙とうをした。また阪神大震災の際にビデオカメラで神戸市内の被災地を撮り、記録映像を残した同期の河田道弘君が当時の模様を講演した。11回生理事の交代も行なわれ旧理事・松本武城君の7年間の労をねぎらい、新理事・柳



瀬弘君に自彊会に新しい息吹を吹き込んでくれるようエールを送った。当日は正午から16時まで、大いにしゃべり、歌い、旧交を温めた。

高校十三回

青山卓哉

卒業50周年を記念して平成23年5月21日、明石市松の内のホテルキャッスルプラザで開催した。一〇五人が参加、恩師は中嶋忠幸氏、茶谷萬壽代さんが出席された。

一九六一(昭和36)年春卒業以来、50年になるのを記念して記念誌「見はるかす明高時代」を発行、出席者全員に配布した。記念誌は、この日に向け1年前に編集委員会(代表・春成秀爾君)を発足させ、66人の同窓生らから高校時代の思い出、社会人時代、結婚後の人生(主に女性)、俳句など74篇が寄せられていた。

プログラムは、まず前回(平成20年10月)開催以降に逝去された6人に黙祷。乾杯の後、有宗政忠君を中心とした「ラブ・ハート」のラテン音楽に魅せられ、学校からお借りしたビデオ「明高生の四季」を観賞、野球部の甲子園出場(一九六〇年夏)者、国体出場者らへのインタビューなどを楽しみながら、高校時代に戻って会場は盛り上がった。二次会はビンゴゲーム、カラオケを楽しんだ。

「見はるかす明高時代」は、当日出席者で希望者の何人かには有料で購入していただいた。明高、市立図書館、県立図書館に寄贈した。

また、会場に東日本大震災義援金募金箱を置き、寄せられた善意を神戸新聞厚生事業団に寄託した。

なお、今回は古希を記念して平成25年5月18日(土)に集うことが決まった。



高校十六回

中谷謙造

還暦から約6年振りの平成23年5月21日にグリーンヒルホテル明石で同窓会を開催致しました。2ヶ月前に起きた「東日本大震災」により、各種イベント等自粛ムード漂う中、参加人数の心配もありましたが、関東方面からの約10名を含め102名の参加がありました。杉ノ原君の司会で会はスタート、まずこれまでに亡くなった同窓生、東日本大震災でお亡くなりになられた方への黙祷に続いて、千葉・柏から参加の西川(旧姓奥山)朝子さんの乾杯で久しぶりの大宴会の始まりとなりました。

今回は、バックに現役でトロンボーンを吹いている津野君の紹介によるミュージシャン(ギター&ボーカル)演奏の懐かしいメロディーを中心としたナムBGMが流れる中、飲食も進み、まずはゆったりとテーブルごとの歓談が弾みました。卒業以来三度目の同窓会開催でしたが、初めての出席者も何人かおり、卒業以来のご対面も各所で交わされていた上、程よく回ったアルコールに、それぞれのテーブルをはしごし再会を喜び合ったり、参加していない仲間たちの音信を確かめ合っていました。

中には、「せっかくやから中学校の同窓会も」の声も。

3時間近くの宴会もあっという間、懐かしさに浸る中全員で校歌大合唱でお開き。今後は、2年後の卒業50周年、その2年後の古希開催を決定し、元気で再会することを約束しました。尚、参加者全員の賛同を頂き、会費の中から神戸新聞社を通じ「東日本大震災義援金」を拠出致しました。



高校二十二回

川崎 秀樹

明石高校を卒業して四十二年が過ぎてしまいい、あつと言う間に還暦を迎えました。十二年前の同窓会で次回は還暦でと約束をしていましたので、5月より池上照夫君、池内満君、石川三郎君、吉川善博君を中心に準備が進められました。平成23年8月13日、西明石のホテルキャッスルプラザで午後一時より受付を始めましたが、既に会場前には懐かしい姿が見え、「久しぶりやな!○○君やる?！」と言うような会話の中で盛り上っていました。先ず全員参加の記念写真を撮り、いよいよ同窓会の開催です。司会は田口雅美さんと川崎秀樹が担当しました。同期生が既に二十名近く亡くなっており、黙祷を捧げご冥福を祈りました。この事はやはり時が過ぎたように感じられることでした。この日は吉川先生、中村先生が来賓としてお元氣な姿をお見せ頂きました。そして参加者の近況報告を各テーブルよりマイクを廻して行いました。遠くは東京より参加してくれた人もあり楽しく和氣藹々の中で時間が過ぎ、一番の話題は同級生が明石市長に立候補したことでした。最後に校歌斉唱、青春時代の二曲の愛唱歌を歌い、会費の残金は東日本大震災の義援金に送ることとして閉会

しました。別室での二次会もほぼ全員参加で会場を後にしたのは夜の七時も過ぎたいと思います。次回は三年後に開催し



高校四十回

世古 有加

春の陽気に包まれた4月29日、グリーンホテル明石にて明石高校40回生同窓会が行われました。79名の同窓生が集い、そして学年主任の狩野幸介先生はじめ、徳田先生・小林先生・加藤(旧姓)先生・平野(旧姓)先生・青木先生・田中先生・上村先生・野口先生ら9名の恩師にもご参加頂き、楽しい時間を過ごしました。卒業以来初めての同窓会、24年振りなので名札に「当時の氏名・ニックネーム」などを書いてもらうよう用意しましたが、それは幹事の取り越し苦労で、顔を見ると自然に懐かしい呼びかけから会話が始まりました。先生方に近況をお話して頂いたり、蝶ネクタイ準備で参加してくれた鳥住君が芸人顔負けのマイクさばきで各テーブルをインタビュウしてまわり、大いに盛り上げてくれました。最後は田中陽三先生が、40回生へのエールを込めて、力いっぱい「がんばって!がんばって!」の民族ダンス(HAKA)を披露してください、驚きと感動のお開きとなりました。その後も、二次会には約50名、三次会には約40名が参加と、積もる話も尽きず

離れたい仲間がいつまでも同じ時を過ごしました。今回、新たに40回生同窓会代表を引き受けてくれた 北山力也新代表の挨拶の中に何度も『絆』という言葉がありました。各地で活躍していても、地元で頑張っている、こうやって集える故郷があること、恩師がいること、仲間がいることに改めて心強く感じました。



62 回生 成人記念同窓会

本城 紀代子 (高25回)

3月20日、晴れやかな春分の日、約70名の62回生と職員9名が中部講堂で再会しました。彼らの卒業後、2年が経ちました。久しぶりの集いで、一瞬誰かと戸惑うほど、変身していた生徒もいれば、ほとんど変わらぬ笑顔を見せてくれた生徒もいました。主任の日野先生のお祝いの言葉から始まり、元担任が次々、お祝いの言葉を述べました。その後、全員で記念写真をとりました。先日、すでに素敵な写真が郵送されてきました。思い出に残る一枚です。後、視聴覚室で全員、ランチを食べながら楽しい歓談です。話はなかなか尽きませんでした。

二十歳、とても輝いている時です。でも、これからますます輝いていきます。私は二十歳の時、とても幸せなはずなのに、不安なこともいっぱい抱えていたように思います。それは何事に対しても経験不足のせいであつたと思います。皆さんはこれから年を重ねるごとに、いろんな経験を世の中のことを少しずつ理解し、不安を自信に変えていってほしいと思います。年を重ね、なくなるのは体

力と物を感じる力かなと思います。今の皆さんは十分な体力を持ち、10学べば、さらに好奇心が湧き、結果20ぐらい学べるのではないかと思います。しっかり学んで、ますます幸せな人生を送って下さい。

ご成人おめでとう！



支部だより

明石市役所支部

「ドアをくぐれば 青春時代」

会長 大西 和彦 (高24回)

明石市役所自彊会懇親会をさる2月13日(月)にグリーンヒルホテル明石において母校、同窓会、さらには県庁自彊会様にも来ていただき開催いたしました。

冒頭の挨拶でも触れましたが、会場のドアこそ青春へのいざないの扉で、くぐれば肩書きは関係なく先輩、後輩の世界がそこにはあり、気持ちがかつての生徒時代へ切り替わって非常に和やかな時間を過ごすことができました。

野球部監督の角野先生より母校の近況を報告していただき、草川同窓会会長、宮野県庁支部会長の挨拶をいただいた後、高校18回尾仲氏の発声で懇談に。各方面での同窓生の活躍や、思い出話など話題は尽きない中、予定の二時間はあつという間に過ぎてしまい、先輩の背中のお話とまだまだ若輩な自分を感じながら、最後に万歳三唱にてお開きといたしました。

多彩な顔触れやお話しに触れるたびに

まさに伝統校ならではの魅力と重みを改めて感じる事ができ、自彊会(同窓会)の役割の重要性と後輩に引き継いでいく責務を感じたのであります。いい先輩、いい後輩、素敵な仲間 ありがとうございます。

今後とも母校の更なる発展、同窓生の活躍を楽しみにしたいと思います。



美術科支部

会報誌「美術科画報」を発送

鷺 森 智 美 (高38回)

平成23年6月25日(土曜日)、梅雨の合間の休日を利用し、急なお知らせにも関わらず集まって頂いた役員の皆さんと、明石高校美術科棟デザイン室にて、今年度は6月末発行予定の美術科同窓会会報誌「美術科画報」の発送作業を行いました。昨年度からメール便を利用し、役員の負担を軽減しようと取り組んできました



たが、会員数も年々増加し、手作業ではなかなか追いつかない状況での作業となりました。

「普段、参加できる機会があまりないので、今回はお手伝いに参加しました。」と、忙しい時間の合間を利用して参加してくれる後輩達に、いつも感動させられます。若い世代の役員の皆さんが、これからの同窓会を引っ張っていただける人材として活躍していけるようサポートに努めます。

今回の会報誌では、特集として海外で活躍する美術科同窓生の貴重な体験談を盛りだくさん掲載しています。また、母校便りとして、在校生の活動も載せていますので、いつも後輩達の活躍を大変楽しみに読ませて頂いていると、会員の方からも喜ばれていますので、これからも頑張って発行を続けていきたいと思っています。

美術科同窓会の活動として、会報誌の発行以外に、美術科同窓会総会の開催(2年に1回)、ホームページブログ(分家)の開設、先輩と在校生との交流会としての講演会の開催、美術科同窓会展の開催などがあります。

今年度の講演会は、12月16日(金曜日)美術科棟油絵室にて、ドイツ留学を経験された、寛有子氏による講演会「On the Line—地球人と絵画制作」を開催いた



しました。在校生たちにも喜んでいただき、また講演後のアンケートには、「アーティストとしての自分を見つめ直す良い機会になりました。」「日本画という一つの絵画ジャンルを学ぶ上で、様々な視点を通して、世界を表現していくことの大切

さがわかりました。これから自分の環境、生活、意志によって画面づくりの傾向が変わっていくことがあると思います。が、悩まずそれを受け入れて自分の表現方法に取り入れたいです。」など、熱心に聞いて頂いた回答をもらえました。

また美術科開設30周年記念になります、第5回同窓会展を、平成25年度に明石高校創立90周年記念事業の一つとして、同時期に開催する予定です。今回は、明石市での開催だけでなく、東京開催も視野に入れて取り組んでいきたいと考えていますので、これからも多方面の先輩方にご協力いただければありがたいです。

最後になりましたが、これらの活動にもご支援いただきました自彊会に、深く感謝申し上げます。



1期生らが中学生に夢を語る 生命・科学探究類型の説明会

平成23年7月30日、オープンハイスクールが開かれ、生命・科学探究類型に関心がある中学3年生が同類型1期生(63回生)ら6人の抱負などに熱心に耳を傾けた。



毎年、開催されているが、今回はパネルディスカッション形式で実施された。パネリストは1期生の板垣政奎さん(兵庫県立大理学部

物質科学科)、加藤依香さん(同生命科学科)、高野尾知賢さん(岡山大学工学部化学生命系学科)、田中聖加さん(大阪大医学部保健学科検査技術科学専攻)、水野亜希子さん(大阪府立大地域保健学域―総合リハビリテーション学類)と59回生の岩井彩さん(神戸大大学院理学研究科地球惑星科学専攻)。

東田純一教諭がコーディネーターになり「私の夢―自然(生命)科学に魅せられて―」と題して、①将来どのようなこ

とをしたいか▽そのようなことを思ったきっかけ▽夢を実現するために現在取り組んでいること②理系の魅力、おもしろさは③理系を選択したが、3年間を振り返って感想を。高校時代にやっておいたらよかったことは④中学生の皆さんに一言。中学時代にしておけばよいことをテーマに6人が意見を述べあった。

この後、中学生は理科棟で同類型の生徒や先生の説明を聞きながら「DNAを見てみよう」の実験をした。

この企画は2回に分けて行われ、両方で中学生118人と保護者(各回20人弱)が参加した。(竹内・記)



バスケットボール部OB会活動報告

和田直樹(高28回)

今年度も例年通り5月3日にOB総会現役親睦会を、8月14日にカーニバルを開催いたしました。また毎週土曜日は午後六時よりOBの練習も行っています。

皆さんの中にも神戸新聞、明石ケーブルテレビ等で目にされた方もあるかと思いますが。それは7月9日に開催しました明石市内の中学生対象バスケットボールクリニックです。市内の中学生が五十人参加してくれましたが、それもそのはず講師が現役全日本選手を含む日本リーグ選手六人!全国の公立高校でこれだけの一流選手を呼んでクリニックが出来るのはほとんどないんじゃないでしょうか?(能代工業除く)その日の体育館は中学生及び顧問、見学の親御さん、当校OB、現役選手、新聞、ケーブルテレビ等の取材陣でごった返し一種異様な興奮状態でした。

クリニックは中学生達の個別練習からゲーム、そして日本リーグ選手とOB選手とのエキシビジョンマッチとケガや熱中症もなく無事終了することができました。そして全日本選手達の華麗なドリブルワークやダンクシュートに中学生のみならず



OB達からも感嘆の声が上がりました。中学生達もいい目標が出来たと思います。なんとかこの中から文武両道の意識の高い選手が我が校に進学してくれることを祈りたいと思います。



東京同窓会

12人が懐石料理で和氣藹々

大西 敏志(高11回)

恒例の「第24回目の明石高校11回生東京方面同窓会」を去る2月4日(土・立春)に「ざくろ銀座店」にて開催いたしました。

出席者はことし年男、年女の男子5名、女性7名の計12名と少人数でした。



従来世話を下された、金澤吉鉦さんが体調を崩し欠席になり残り残念でした。会場

は銀座4丁目、当日は銀座通りは歩行者天国で天気も申し分なく、大変な人盛りで賑やかでした。そんな中、雑踏からは無縁の静かな地下のお店での会食となりました。

最初は、全員でビールの乾杯でスター

ト。料理は和食懐石で、旬に先がけ春の味覚を食しながら出席者が順番に1年を振り返り近況等々を語りあい和氣藹々の雰囲気の中、大変な盛り上がりでした。また我々は明石高校を卒業後54年目を迎えます。昔の懐かしい思い出にも興じました。

そして会の終わりに、野澤さんが準備して下さった楽譜「明高校歌」をご本人のマンドリン伴奏で合唱し、一次会は締めとなり集合写真撮影会場を後にし、二次会場へ移動。お茶をしながら、またまた話が盛り上がり、時間の経つのも忘れ話が弾み、お開き後、外へ出ると日は暮れて暗くなっていました。

来年の再会を約しながら、三々五々有楽町を後にし、家路につきました。

「築地市場」内の雰囲気味う

坂口 賢一(高13回)

昨年の10月6日、秋晴れの朝9時、東京在住の19名が「築地市場」見学に集いました。

築地市場はその昔、徳川家康によって開設された幕府御用達の魚市場『日本橋魚河岸』が原形で、今も、朝の4時〜8時までセリ場が立ち、仲卸売場にあつては、9時頃まで仕入担当者が行き交い賑

わっています。

この日は果物やマグロのセリ場の一角、江戸前鮮魚を捕る漁船の専用船着場、陸送活魚の保管水槽、生マグロの解体ショーなど、普段では見ることができない所を、マグロ仲卸業者の案内で見ることができました。築地市場内の雰囲気を味わうことができました。

歩き疲れたあと筋向いの食事処で、飲んだり食べたりの、2時間に亘る近況報告会で盛り上がりました。

その後、観光客や一般消費者も自由に買い物ができる「場外市場」内の散策で、流れ解散になりました。



高十三回生のゴルフコンペ

井上昌俊君が優勝

13回生のゴルフ愛好家が年一回集う第8回「喜春会(きはるかい)」ゴルフコンペを23年5月20日、三木セブンゴルフクラブで28人が参加して、持ちハンディ方式で実施した。個人の上位成績は次のとおり。(敬称略)

優勝 井上 昌俊

(42、48、90、ハンディ 17)

準優勝 浜田 功一

(45、49、94、ハンディ 21)

三位 江島 昭臣

(41、44、85、ハンディ 8)

(井上・記)



第8回「喜春会」ゴルフコンペ
平成23年5月20日(金)於:三木セブンG.C

自彊セミナー報告

近隣の主要5大学を訪問 オープンキャンパスに延べ119人

自彊セミナー(旧土曜セミナー)運営委員会は、平成23年7月下旬から8月上旬にかけて近隣の主要5大学のオープンキャンパス訪問を実施した。バスを利用して延べ119人の生徒が、それぞれの大学の個性的な雰囲気味わった。引率には先生方のご協力もいただいた。訪れた大学と人数は次のとおり。

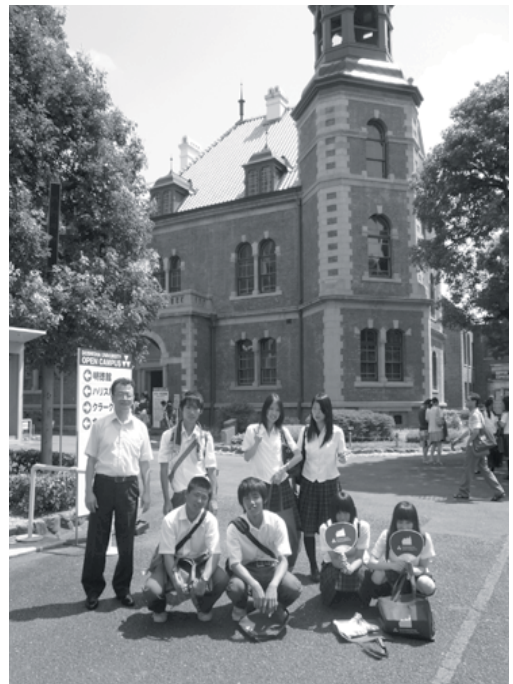
- 7月31日 関西学院大上ヶ原キャンパス、39人
- ▽関西学院大聖和キャンパス(教育学部) ↓
- 上ヶ原キャンパス、20人
- 7月31日 同志社大今出川キャンパス、7人
- 8月5日 岡山大津島キャンパス、21人
- 山下登・岡山大法科大学院教授(高28回)のミニ講義の後、高野尾知賢・岡山大工学部化学系生命系学科1回生(高63回)が学内を案内
- 8月7日 関西大千里山キャンパス ↓
- 甲南大岡本キャンパス、32人



←岡山大学



←甲南大学



同志社大学



関西学院大学



関西学院大学聖和キャンパス



関西大学

転勤あいさつ

変化と発展を願って

木村 綾 先生



「新生
明高」
という
キャッ

チフリーズのもと、制服も一新した年に、私は明石高校に着任しました。あれから入試制度が大きく変化し、制服に身を包む明高生の様子も年々変化を遂げました。その事を何より実感したのは授業です。高校生活は大部分は授業で成り立っています。が、その授業を行う中で、「楽しいな」とか「もっとこういう事を教えたいな」と思う回数、年々確実に増えました。この事は、教師にとって他のどのような事よりも嬉しく、有難い事だと私は思っています。

これから数年後には、学区が拡大され、制服を着る明高生の姿も、また少しずつ変化するのでしょうか。今後は一市民として、明高の変化と発展を見守り続け

たいと思っています。九年間お世話になりました。

ありがとうございました

吉川 重宏 (高34回)



今か
ら15年
前の4
月1日

教師として初めて母校に戻った私を、高校時代にもお世話になった事務員さんが「お帰りなさい！」と笑顔で迎えて下さいました。そしてその年に生まれた子どもたちが明高に入学してくるのに入れ替わりに私が母校の教壇を去ることになった今、時の巡りを痛感いたします。

思えば、幼い頃からいつも身近に感じていた明高キャンパス。この学舎で多感な青春時代を過ごし、そしてまた母校にご恩返しをさせていただく機会を得ることができた私は本当に幸せでした。

その中で同窓会との関わりも

私にとっては忘れることのできない思い出の一つとなっています。特にこの同窓会だよりにはいろいろな思い出があります。着任以来「この人に聞く！」というコーナーをずっと担当させていただき、これまで多くの生徒さんたちと関わって参りました。このコーナーに登場して下さった皆さんは、紙面を飾れることを本当に誇りに感じて下さり、取材に関しては、こちらが恐縮するほど真摯な態度で協力して下さいました。心より感謝しています。これからは一読者として楽しみにさせていただきます。

15年という歳月は私にとって本当にあつという間で、こうして離任のご挨拶文を書いている自分がまだ信じられないというのが正直な気持ちです。

しかし、これからは、新天地で精一杯頑張ることが、これまで私を育ててくれた母校へのご恩返しになるものと信じ、前を向いて突っ走りたいと思います。これまでお世話になった皆様、本当にありがとうございました。そしてこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

人事異動

☆ 転退任 ☆

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|--------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 村上 信雄 先生 [英語] (退職) | 櫻井 博之 先生 [英語] (退職) | 國政美貴子 先生 [英語] (退職) | 福田 重人 先生 [国語] (退職) | 山内 裕文 先生 [体育] (退職) | 片尾 晋哉 先生 [数学] (退職) | 鎌田 陽造 先生 [事務] (退職) | 木村 綾 先生 [国語] (退職) | 吉川 重宏 先生 [情報] (明石北高校へ) | 岡松 伸治 先生 [国語] (神戸甲北高校へ) | 田中 浩也 先生 [地歴] (伊丹北高校へ) | 濱田 紗江 先生 [理科] (退職) | 池田 路 先生 [実習] (明石清水高校へ) | 佐藤 和子 先生 [事務] (高砂南高校へ) | 澤中日出雄 先生 [事務] (尼崎北高校へ) |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|--------------------|------------------------|------------------------|------------------------|

☆ 着任 ☆

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------|-------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|
| 櫻井 博之 先生 [英語] (明石高校より) | 國政美貴子 先生 [英語] (明石高校より) | 福田 重人 先生 [国語] (明石高校より) | 片尾 晋哉 先生 [数学] (明石高校より) | 久保田 毅 先生 [国語] (神戸甲北高校より) | 都留佳代子 先生 [国語] (伊川谷高校より) | 高原 大輝 先生 [体育] (新任) | 稲嶋 馨 先生 [理科] (新任) | 生木 達也 先生 [地歴] (尼崎小田高校より) | 谷岡 寛子 先生 [数学] (初任) | 内田 雄三 先生 [理科] (初任) | 狭間 崇 先生 [理科] (初任) | 三葉 響子 先生 [実習] (西宮南高校より) | 上村 晃代 先生 [事務] (真教委総務課より) | 重松 修 先生 [事務] (明石北高校より) | 長松 洋司 先生 [事務] (農業高校より) |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------|-------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|

穂原勝美氏に感謝状

同窓会活動に何かとご協力をいただいている穂原勝美氏(中6回)に、草川雄二会長が23年8月2日、ご自宅を訪問し感謝状を贈った。

資料館のトイレと炊事場が古くなっており、穂原氏の協力をえて全面的に改修した。トイレは非常に爽やかになり、炊事場は器材をそっくり入れ替え、水屋も新しく購入した。おかげで同窓会の会議に常時使用させてもらっている資料館が、さらに快適になった。



*** 事務局より ***

—— お詫び ——

中学18回の皆様が、平成22年11月9日に最後の同窓会を開催され、収支決算の結果、残金七八、五四〇円を当日ご出席の皆様のご同意で全額を同窓会にご寄附いただきました。この件を、前回発行の会報19号で記事に掲載すべきところ、手違いにより洩れてしまいました。一年遅れになりましたが、中学18回の皆様にお詫びするとともに、ご報告申し上げます。

—— お願い ——

- ① 転居されたときには新住所をお知らせ下さい。
- ② お亡くなりになった方の連絡については、間違いを防ぐため、ご逝去の年月日を必ずお知らせ下さい。
- ③ 学年全体の同窓会を開催される場合、補助金をお渡ししますので、代表者の方は事務局へご連絡をお願いします。
- ④ 部活動の同窓会にも、補助金を支給する規定があります。詳細は事務局へお尋ね下さい。
- ⑤ 事務局が常駐でないため、電話が繋がらないことも多いと思います。住所変更等の連絡は、ファックスが一番確実です。よろしくお願ひします。

平成24年度同窓会役員

| | | | | |
|--|---|--|--|--|
| 会長 草川 雄二(高11回) | 清水 正孝(高3回) 浅田 弘子(高6回) 茨木 智(高8回) 米澤 淑介(高12回) 三浦 宏(高14回) 松本嘉代子(高16回) | 桃尾 行男(高3回) 赤松 信(高4回) 向井 勝夫(高5回) 密谷 和正(高6回) 安藤 博美(高7回) 石井 清隆(高8回) 堤 明(高9回) 小山 孝治(高10回) 柳瀬 弘(高11回) 佐々木伸一郎(高12回) 西川 真澄(高13回) 谷川 博男(高14回) 津野 弘子(高15回) 岡本 建二(高16回) 奥田 寛(高17回) 佐々木卓郎(高18回) 岩澤 武(高19回) 池田 隆行(高20回) 藤丸 達美(高21回) 池内 満(高22回) 広岡 克哉(高23回) 河合 昭彦(高24回) 瀬川勝太郎(高25回) 長谷川恵一(高26回) 永井 邦治(高27回) 坂東 英敏(高28回) 小椋 利雄(高29回) 福本 明彦(高30回) 吉田 信次(高31回) | 三木 翔理(高32回) 戎 義弘(高33回) 堀田 健一(高34回) 井上利可子(高35回) (高36回) (高37回) 西川 昌宏(高38回) (高39回) (高40回) 梅田 光一(高41回) 谷口 正晃(高42回) 高雄 正臣(高43回) (高44回) 本田 学(高45回) 藪内 健吾(高46回) 西山 武(高47回) 澤田 雅文(高48回) (高49回) (高50回) 芝 純司(高51回) (高52回) 小島 一朗(高53回) (高54回) 橋本 真彰(高55回) 村中 裕(高56回) 豊島 千尋(高57回) 山本 芳行(高58回) 佐藤 匠(高59回) 竹内 裕貴(高60回) | 和田 亮磨(高61回) 西山 直幸(高62回) 中下 将太(高63回) 小柴 智弘(高64回) |
| 副会長 岸本 潔(中19回) 岡野 茂晴(高3回) 竹内 信六(高13回) 嘉藤 弘之(高15回) 和田 直樹(高28回) | 学年理事 (中1回) (中3回) (中4回) 松岡 謙治(中5回) 穂原 勝美(中6回) (中7回) (中8回) (中9回) (中10回) (中11回) 永田 貞雄(中12回) 前川 利一(中13回) 浅田 正行(中14回) 倉内 禅(中15回) (中16回) 中尾 和一(中17回) 安藤 勉(中18回) 佐伯 勉(中19回) 杉山 清巳(中20回) (高1回) 高木太三郎(高2回) | 兵庫県庁支部 宮野 敏明(高22回) | 神戸市役所支部 明石市役所支部 大西 和彦(高24回) | 淡路支部 東京支部 浜口 臣邦(高5回) |
| 常任理事 安藤 勉(中18回) 今村意一郎(高16回) 伊川美智子(高16回) 長塩 知子(高18回) 佐々木卓郎(高18回) 岩澤 武(高19回) 鷺森 智美(高38回) | 監事 前川 利一(中13回) 加護谷榮章(高7回) | 神戸市垂水支部 美術科支部 鷺森 智美(高38回) | 事務局 木下 裕一(高15回) 吉田 真司(高21回) 本城紀代子(高25回) 角野 友昭(高42回) | |
| 顧問 岡本 光弘(校長) 岡田 進裕(中19回) 越智 聰明(高1回) 秋山 泰治(高1回) 松本 ヤス(高2回) | | | | |

平成23年度決算報告

(平成23年度決算報告は総会で承認頂く予定です)

1 一般会計

| | | (単位：円) | |
|--------|---------------------------|------------|------------|
| (収入の部) | | 予算額 | 決算額 |
| 1 | 平成22年度繰越金 | 3,120,544 | 3,120,544 |
| 2 | 平成23年度年会費納入金 | 3,200,000 | 3,575,750 |
| 3 | 財政調整基金より | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 4 | 在校生会費積立金 | 6,300,000 | 6,385,450 |
| 5 | 雑収入(ご寄付、財政調整基金銀行利息、銀行利息等) | 10,000 | 449,715 |
| 合 計 | | 14,630,544 | 15,531,459 |

| | | 予算額 | 決算額 |
|--------|-------------------------|------------|------------|
| (支出の部) | | | |
| 1 | 総会費 | 300,000 | 45,450 |
| 2 | 会報発行費(取材費、印刷費、発送費等) | 4,000,000 | 3,387,952 |
| 3 | 活動補助費(同期会、支部、部活動補助等) | 1,200,000 | 682,500 |
| 4 | 母校援助費(振興会分担金、学校活動支援費等) | 5,700,000 | 4,110,449 |
| 5 | 事務費(会議・通信費、維持管理費、事務局費等) | 3,100,000 | 2,409,698 |
| 6 | 学校創立90周年記念事業準備費 | 300,000 | 300,000 |
| 7 | 予備費 | 30,544 | 0 |
| 8 | 次年度繰越金 | | 4,595,410 |
| 合 計 | | 14,630,544 | 15,531,459 |

2 基金

| | | (単位：円) | |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| | | (収入の部) | (支出の部) |
| ① | 財政調整基金 | | |
| | 平成22年度繰越金 | 4,000,000 | |
| | 銀行利息 | 8,038 | |
| | 一般会計へ繰り出し | | 2,008,038 |
| | 次年度繰越金 | | 2,000,000 |
| 合 計 | | 4,008,038 | 4,008,038 |

| | | | |
|-----|--------------|-----------|-----------|
| ② | 90周年記念事業特別基金 | | |
| | 平成22年度繰越金 | 5,000,000 | |
| | 次年度繰越金 | | 5,000,000 |
| 合 計 | | 5,000,000 | 5,000,000 |

| | | | |
|-----|------------------|-----------|-----------|
| ③ | 自彊セミナー特別基金 | | |
| | 平成22年度繰越金 | 3,630,788 | |
| | 銀行利息 | 219 | |
| | 活動費(大学見学バス借上げ料等) | | 385,550 |
| | 次年度繰越金 | | 3,245,457 |
| 合 計 | | 3,631,007 | 3,631,007 |

3 監査報告

平成23年度の決算について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。

平成24年4月3日

監事 前川 利一 印
監事 加護谷 榮章 印

編集後記

「自彊会だより」も今回で第20号となり、これを機に紙面を一新しました。A4版24ページの冊子で表紙は立派なカラー印刷となりました。この記念すべき第20号の表紙は現在の母校学舎、裏表紙は旧校舎としました。横に開いて見るととき本校の伝統の重さを感じ取っていただければ幸いです。今後とも母校や市内の懐かしい風景や新しい景色を掲載していきたいと考えています。「できるだけ読みやすく」を念頭に、本文の構成も若干変更しました。会費納入者名簿は別刷りとして本誌に同封して送らせていただいております。また、お悔みの記事に関しては、編集委員会で完全なお知らせにはなり得ないこと、編集責任の重さから、止めてはどうかとの意見もありましたが、理事会で多くの方から継続のご希望があり、当面は従来どおりの形で続けることとしました。

閑話休題。明石市営バスが3月16日をもって61年の歴史に幕を降ろしました。その昔「黒橋廻り明高行」、「太寺廻り明高行」のバスに明高生がドアからこぼれ落ちちんぽかりに鈴なりで走っていた姿が懐かしく思い出されます。裏表紙の市バスは約50年前新車で投入された「きんぽ号」を、当時小学生だった筆者がその頃の記憶を元に製作した1/32スケールモデルです。

最後に本誌がA版となったことで、書棚の片隅に保存していただき易くなったと思っており、保存していただくかにはそれに値する内容となるよう、今後とも努力していく所存です。
本号の発行に際しては、紙面構成に尽力いただいた木下ブンセイ出版印刷殿、多くの写真を提供いただいた北村写真室殿とともに、お忙しい中編集作業に携わっていただいた編集委員の皆様深く感謝いたします。

編集委員長

佐々木卓郎(高18回)
安藤 勉(中18回)
草川 雄二(高11回)
竹内 信六(高13回)
長塩 知子(高18回)
吉田 真司(高21回)
吉川 重宏(高34回)



約50年前新車で投入された
市バス「きんぼ号」の
1/32スケールモデルです。



1934年のおもいで。

昔も



発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町 1744 番地
078 (913) 6554
印刷：(有) 木下ブンセイ出版印刷